

■ 阪神高速グループの求める技術 重点項目

【タイトル】：危険運転の検知または要注意車両の情報提供技術
【背景・課題】： 道路会社で直接リアルタイムで危険運転車両等の検知は難しい。そのため、一般ドライバーに伝達する際は、走行する車両等からの情報提供によりITV等に確認より把握し、情報提供しており大幅なタイムラグが生じている。
【ゴール・目標】： 危険運転車そのもののデータをリアルタイムに取得し、他のドライバーに情報提供する（情報板、ナビ）ことにより2次事故等を防ぐことが可能となっている。
【実現イメージ】： ・最高レベルの安全性と走りやすさが備わった高速道路 ・お客さまのニーズに応じたルート選択や定時性を確保 ・災害発生時のお客さまの安全確保とライフライン機能維持 ・関西の都市構造の強靱化
【取組み】： ・プローブ交通情報等を活用した交通制御による交通事故・渋滞の削減 ・車両や個人のICT機器と連携した避難誘導方法や交通制御手法を確立
【対象設備－対象構造物】： ・防災・安全－安全対策
【業務分野】： ・交通

(2022年9月時点)